朝日大学病院を受診された患者さまへ

研究情報の公開について（オプトアウト）

通常、臨床研究を実施する際には、文書もしくは口頭で説明し同意をいただきます。臨床研究のうち、患者さまへの侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いるものは、国の定めにより、対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得る必要はなく、研究の目的や方法などの情報を公開のうえ、拒否の機会を保障しなければならないものとされております。このような手法を「オプトアウト」といいます。当院では、このオプトアウトを用いた研究を下記のとおり行います。研究への協力を希望されない場合は、下記に記載の担当者までお知らせください。	
研究課題名	MRONJ 患者における CT および MRI における有用性の検討
当院の研究責任者（所属）	松下　貴裕（歯科・口腔外科）
他の研究機関および各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	薬剤性顎骨壊死（MRONJ）は、顎骨に発生する治療が難しい病変であり、早期の診断と適切な治療が患者の予後を改善するために重要である。しかし、臨床所見だけでは粘膜下にある病変、特に骨髄炎の進行を正確に把握することは困難なことがある。画像検査において、CT は骨の溶解、硬化、骨膜反応、下顎管の肥厚、皮質骨欠損や肥厚など、粘膜下の病変の進行状況を詳細に確認するのに適している。一方、MRI は炎症の活動性を示す所見を捉えることができ、T1 強調像では低信号、T2 強調像では中間信号、STIR 像では高信号が認められることがある。さらに、AAOMS2022 では MRONJ のステージ 0 を非露出骨病変として位置づけているが、これには非特異的な所見しか見られず、明確な診断基準が確立されていない。また、ステージ 0 からステージ 1 への進行が約 50％であるとの報告もある。 MRONJ患者におけるCT画像とMRI画像の診断精度を比較するとともに、MRIの拡散強調画像（DWI）におけるADC値が健常者と骨露出がない段階のMRONJ患者を区別する有用な指標となるか評価を行う。
調査データ該当期間	2018から2024年
研究の方法（使用する資料等）	既に撮影された CT 画像、MRI 画像
試料/情報の他の機関への提供	なし
個人情報の取扱い	完全に匿名化し外部と途絶したPCにて保管します。 研究結果の公表においても個人が特定されることはありません。 また研究以外での目的で情報を使用することはありません。
本研究の資金源（利益相反）	利益相反は生じません。

お問い合わせ先	研究代表者：歯科・口腔外科　松下貴裕　058-253-8001
備　　考	

朝日大学病院